

蔵王権現〈ざおうごんげん〉（篠山町）

篠山町の池上に、蔵王権現さまがお祭りしてあります。この権現さまは、高さ四十九センチの赤銅〈しゃくどう〉の仏様で、左手を腰に、右手と右足をあげ悪魔〈あくま〉を鋭〈すど〉くにくらみつけている姿は、いかにも威厳〈いげん〉そのものです。

その昔、役〈えん〉の行者〈ぎょうじゃ〉が奈良の吉野で、世の中を立派に人びとを幸福にするためにお祈りしていた時、権現さまが姿を現わされ、「悪い者は必ず退治〈たいじ〉しよう。」と、お告〈つ〉げがあったと伝えられています。

元、三岳〈みたけ〉（畑山）の修験道場〈しゅげんどうじょう〉にお祭りしてあったといわれ、文明十四年（六百年ほど前）に三岳で戦があった時、頼慶〈らいけい〉という和尚〈おしょう〉さんが、権現さまを背負〈せお〉い、城南村の竜蔵寺まで逃れて来て、祭ったということですが、その後、文政三年七月に今の池上の地に移されました。

権現さまは、蝮〈まむし〉が大へんきらいで、池上や北村には昔から一匹も蝮が住んでいないそうです。今までに、一人も蝮にかまれた人がなく、田の畦〈あぜ〉を素足〈すあし〉で歩いていても、草取りや草刈りでも安心だと、喜ばれています。また洪水〈こうずい〉で蝮が流れついても、体が弱りきって生きて生きることができないと、不思議がられています。それで村の人々は、権現さまのお守りを持って野山に出かけると、絶対に安心だということなのです。